

中国箏曲の伝統と変容を考える ——中国箏演奏家・蘇宇虹女史を迎えて

増山賢治 愛知県立芸術大学音楽学部教授（音楽学）

平成 21 年度音楽学コースの特別講座は、中国北京の元中国放送民族楽団所属の中国箏演奏家、蘇宇虹さんによるレクチャーコンサートが行われた。本報告は時間上、当日の解説やインタビューでは伝えきれなかった事柄の補足を含め、中国の伝統音楽の現状を考える1つの問題提起としてまとめたものである。

日時と内容はチラシおよびプログラムの通りで「—中国の箏に関するお話と演奏—」～2010年1月13日（水）18:00-19:30 オペラアンサンブル棟 中リハーサル室。なお、当初演奏予定の《スケーターズワルツ》は変更されて《涙そうそう》が演奏された。

中国箏とその音楽

中国箏は（音楽）考古学方面の研究成果や古文献に「秦箏」という表記（呼称）も残されていることから、秦代にすでに存在したと考えられている。唐宋代に13弦のタイプ（日本の箏の源流となったもの）が出現し、清代には16弦となり、弦の素材も絹のほかに銅も使用されるようになった。現在は絹弦にスチールをコーティングした金属弦の21弦のタイプが普及しており、弦の材質以外にも糸巻きなど構造上、様々な箇所新しい工夫が施されている。長きに渡って単に「箏」と呼ばれて来たが、20世紀初頭以降「古箏」という呼称が定着している。

現在、「伝統」として認識され、私たちが実際に耳にすることのできるその独奏形式はそう古いものではないらしく、清代後期に語りもの音楽上演の幕開きや幕間音楽としての器楽演奏や、民間の合奏音楽から派生したものといわれている。

中国箏は外見上、日本の箏と大差がないように感じられる。しかし、伝承方式として日本の箏曲のような家元制度はなく、中国語でいう「流派」¹とは地方演奏様式という意味合いに解釈されるなど、演奏テクニックから楽曲まで様々な点で違いが見られる。それに関連して中国箏の音楽に止まらず、中国音楽における伝

続の変容について理解するための参考例として、ゲスト演奏者とその師弟関係について少し触れておきたい。

ゲスト演奏者をめぐって

蘇宇虹（スーユーホン）さんは浙江派を伝承する古箏演奏家で、北京の中国放送民族楽団（中国語の正式名称は「中国広播芸術団民族楽団」）の首席古箏奏者であった。在日 22 年。桐朋学園大学作曲科で作曲を学び、生田流箏曲の演奏にも堪能である。本業の中国箏の演奏活動例は枚挙に暇がないので詳細は省略するが、彼女個人のリサイタル（レクチャーコンサートでは筆者が解説を担当したことがある）以外では和太鼓グループの「鬼太鼓座」に同行しての全国および海外公演が筆者には印象に残っているものの 1 つである。極めて多彩な彼女の演奏および創作（改編を含む）活動を振り返ってみると、一人の演奏家の演奏スタイルの変遷と伝統音楽との変容との関わりという点で、筆者にとっては実に興味深い問題が想起される。

そういう意味で、伝統音楽がどのように伝承、改編され、新曲が創作されて、そして演奏スタイル変わっていくかということを考える上でも、何らかの参考になるかも知れない蘇さんの音楽的バックグラウンドのうち、来日前に師事した古箏演奏の恩師たちについて簡単に触れておきたい。

彼女には四人の師匠がいる。まずは中国箏の巨匠、曹正（男性）。1920 年生まれで河北省昌黎県の出身。幼い頃より箏の名手、婁樹華²に師事し、中華人民共和国成立後、東北の魯迅芸術学院や沈陽音楽学院、北京の中国音楽学院での教職を歴任。『古箏演奏法』（音楽出版社、1958 年）などの著書や《高山流水》（中国唱片社、M-142 甲）ほか録音も数多く残している。項斯華は 1940 年上海生まれの女性の古箏演奏家。上海音楽学院附属中学ではピアノを専攻していたが、同学院（大学）に進んだ後、古箏専攻に転向。王巽之、曹正、郭鷹らに学ぶ。1965 年卒業後、北京の新影楽団に配属され、古箏のほかにオーケストラでハープ奏者も兼任していた。范上娥は女性の古箏演奏家。1942 年上海生まれだが、原籍地は主要演奏様式の 1 つ潮州派の地元、広東省潮陽県。1954 年の上海音楽学院附属中学ではピアノを専攻したが、1958 年古箏に転向。浙江派演奏家の王巽之に 8 年間指導を受け、同派の楽曲をマスターした。その間、曹正、郭

鷹に河南、山東、潮州派の箏曲を学んだ。王昌元は 1945 年生まれの女性古箏演奏家。浙江杭州の人。九歳より父、王巽之より浙江派箏曲を直伝。1960 年に上海音楽学院に入学、潮州箏の名手、郭鷹について学ぶ。創作箏曲《台風と戦う》で注目され、卒業後は上海民族楽団に所属、独奏家としても活躍した。王莉は女性の古箏演奏家。河南派の伝承者の一人で、中国中央楽団の一員として来日公演を行ったことがある。

次に、中国在住時の所属演奏団体である中国広播芸術団民族楽団について少し述べる。1953 年に成立した中国楽器によるオーケストラと民謡演奏グループで構成される組織で、オーケストラは 30 種以上の中国楽器（撥弦、擦弦、管、打の各セクション）を擁している。伝統楽曲を新しいアレンジでの演奏や新作上演を主眼としており、蘇さんが在籍中（70 年代後半から 80 年代初期）に来日公演を行ったことがあり、当時の指揮者は伝統楽曲の改編に大きな足跡を残した彭修文（故人）で、中国音楽の伝統曲のアレンジの状況や傾向を探る上で重要な演奏団体の 1 つである。当時の代表的な録音としては『中国広播民族楽団中国音楽名曲選 (1)(2)』（EMI、EMGS-6079,6084）、『春江花月夜 中国広播民族楽団演奏的古典、伝統名曲』（中国唱片 HL-136）などがある。



演奏する蘇宇虹氏

演奏曲目について

1 高山流水（箏の古曲）

「高山流水」という語句は優れた音楽のたとえとして使われる熟語・ことわざで、文字通り高い山と流れる水という山水画のイメージを音で表現した曲。中国春秋時代、琴の名手・伯牙（はくが）が高い山を思っで弾くと、友人の鍾子期（しょうしき）が「泰山のようだ」と評し、流水を思っで弾くと「大河のようだ」と評したという故事に基づき音楽に精通する人＝親友を意味する「知音（ちいん）」の語源となったもので、「断琴の交わり」ともいう。七弦琴（古琴）の名曲《高山流水》は同名異曲で、箏曲《高山流水》は「老六板」という民間の曲調（中国の様々な音楽ジャンルの伝統楽曲の創作素材となっている）が源流と考えられる点で、同名の琵琶曲と共通しており、現在演奏されている浙江派の箏曲《高山流水》は横笛による演奏譜を王巽之が箏曲に移植したものといわれ、「高山」と「流水」の二部構成。

ちなみに、曹正の演奏を残された録音で聞いてみると、非常にシンプルであるが、項斯華のそれは低音を加え、装飾音も増えていることがわかる。蘇宇虹さんの演奏は項斯華の演奏に近い。

2 ヤオ族舞曲（箏の改編曲）

ヤオ族は湖南省、雲南省、広東省、東南アジアに居住する少数民族で、漢字では「瑶族」と表記する。通常原曲として知られているのは劉鉄山と茅沅の共作による管弦楽曲（1953年初演）。民族楽器の合奏曲としても広く演奏されており、また、古箏をはじめ各種の独奏楽器でも聞かれる機会も多い。1951年に作曲者の1人、劉が南部、華東一帯の少数民族居住地域を訪れた際に接したヤオ族の歌舞芸能の印象を表現した曲として知られている。民族管弦楽への改編（彭修文による）は1954年と比較的早く、箏曲への改編（尹其穎による）も1950年代に行われた。

構成は次の通り。(1) プロローグ、角笛を合図に人々が祭りの場に集まる様子。(2) 賛歌、人々の歓声、音楽と歌が大地と山々にこだまする。(3) 夜曲、夜更けに松明の下で幸せな生活への希望を語り合う。(4) 祭りの賑わいの再現。

3 洞庭新歌（箏の新曲）

王昌元、浦奇章の合作による1970年代の作品。湖南省の洞庭湖（今は泥沙の堆積により湖沼になっている）付近の瀟湘八景（瀟水が湘江に合流して洞庭湖にそそぐ付近の8カ所の佳景＝平沙落雁、遠浦帰帆、山市晴嵐、江天暮雪、洞庭秋月、瀟湘夜雨、煙寺晚鐘、漁村夕照）。これに倣ったのが日本の近江八景、金沢八景で、ちなみに日本の相模国を意味する「相」は「湘」になぞらえたものである。毛沢東の故郷である湖南省の民謡を素材とした作曲された箏曲で、近年、古箏のグレード試験の課題曲としてよく取り上げられる。

4 千の風になって（新井満作曲）

5 戦台風（箏の新曲）

王昌元作曲の古箏独奏曲。作曲年代は『中国音楽詞典続編』では1965年と記されているが、『中国現代音楽史綱』（p.193）では1964年となっている。その曲調から文化大革命中の作品のような印象を受けるが（70年代の新曲として記している文献もある（『当代中国音楽』 p.155）、実際はそうではなく同時期に盛んに演奏されたことによると思われる。

上海の港労働者が国の財産を台風から守ろうとする気概を表現したものとされている。(1) 労働者が作業に勤しむ様子、(2) 台風の来襲、(3) 台風と戦う、(4) 台風一過、(5) 喜びに沸く港

ラドミの3音を骨格音とする旋律をベースに、浙江派の得意とする演奏テクニックの1つである右手親指による急速なトレモロ奏法を駆使するほか、両手による撥弦、アルペジオなどの新しい手法も用いられている。

6 さくら変奏曲（蘇宇虹編曲）

7 花・夜来香（蘇宇虹編曲）

沖縄ポップスの雄、嘉納昌吉の代表的ヒット曲《花～すべての人の心に花を》（1979）と黎錦光^{リ ジンガアン}作曲、李香蘭^{リ シアンラン}（山口淑子）が歌った日中戦争時代の名曲歌謡《夜来香》^{イエライシアン}（1944）のメドレー。夜来香とは文字通り夜に甘い香りを放つ花で、ヤ

コウボク（英語名ナイトジャスミン）に似ており、女性の恋心を花に託して歌ったラブソングとして有名。当初は中国語で吹き込まれ、日本語による歌唱は1945年以降。

8 将軍令（箏の古曲）

浙江派箏曲の名曲で、将軍が出陣の命を下す様子を表現している。近年日本でも公開された映画「レッドクリフ」「墨攻」などの軍隊の出陣場面のイメージを思い浮かべると分かりやすい。様々な楽器による同名異曲が多い。中国楽器（箏をはじめ琴、琵琶など）の伝統的な独奏曲は曲の雰囲気によって文曲、武曲に二分されることが多い。文曲は静かなイメージ（《高山流水》など）、武曲はその対極で勇壮なイメージを称えているもので、この曲は後者。



愛知県立芸術大学音楽学部
音楽学コース特別講座
—中国の箏に関するお話と演奏—

2010年1月13日(水) 18:00-19:30
音楽学部オペラアンサンブル棟 中リハーサル室
入場無料 (一般の方の聴講を歓迎いたします)

出演: 蘇宇虹 (スーユーホン) 中国箏演奏家、元中国放送民族楽団

演奏曲目: 高山流水、ヤオ族舞曲、花・夜来香、
洞庭新歌、寂空夜宇、将軍令 ほか

《出演者 Profile》
北京出身。中央音楽学院で古箏を専攻、古箏各流派の一流演奏家に師事。中国放送民族楽団の首席古箏奏者となる。来日後は、和太鼓グループ「鬼太鼓座」のゲストプレイヤー、「スーパー歌舞伎」の音楽演奏、NHK「中国語講座」のゲスト出演、中国経典のCM音楽担当や「中国古箏の世界」リサイタルなど多彩な演奏活動を展開している。

お問い合わせ: 愛知県立芸術大学学務課 電話: 0561-62-1180 (代)

コンサートのプログラム

- 1 高山流水（箏の古曲）
- 2 ヤオ族舞曲（箏の改編曲）
- 3 洞庭新歌（箏の新曲）
- 4 千の風になって（新井満作曲）
- 5 戦台風（箏の新曲）

*出演者へのインタビュー

- 6 さくら変奏曲（蘇宇虹編曲）
- 7 花・夜来香（蘇宇虹編曲）
- 8 将軍令（箏の古曲）
- 9 スケーターズワルツ
(E. ワルトトイフェル作曲)

特別講座のポスター（音楽学コース3年伊藤円さん作成）

インタビューから

休憩を兼ねたインタビューの時間では、演奏曲目、演奏スタイルが近年に急速に様変わりしている状況について紹介した。具体的には奏法についてビジュアル嗜好が支配的となり、大袈裟な動きと伝統曲演奏の凋落など世代交代と伝統および流派の継承危機を招いているという話題を取り上げた。そしてそれに関連して日本の現代箏曲からの影響についても言及した。

さらに、演奏家の世代交代については、曹正すでに亡く、項斯華、王昌元、王莉ら、そして蘇さん自身も含め中堅世代の演奏家の国外移住も伝統の凋落に少なからぬ影響を及ぼしたと考えられることも指摘された。ちなみに、女子十二楽坊に代表されるビジュアル性重視、経済収益最優先の傾向は古箏だけではなく、中国音楽全般に顕著に見られる現象であることを、筆者は中国研究所編『中国年鑑 1996 年』（新評論社）「音楽」にて言及し、爾来、現在も指摘し続けているのだが、音楽学の方面に届いているかどうかは定かではない。

開催運営上の反省点としては、事前の準備および宣伝不足と、冬場はエアコンの音が演奏鑑賞の妨げになることに対策を考えていなかった事が挙げられ、今後の改善に生かしたいと考える。急な開催にも関わらず、熱心に快く手伝ってくれた学生たちに感謝したい。



レクチャーコンサート終了後に蘇宇虹氏を囲んで

2010 年1月13日(水)、愛知県立芸術大学オペラアンサンブル棟中リハーサル室にて

[注]

¹ 主要な流派に山東、河南、浙江、客家、潮州などがある。

² 1907-1952. 河北玉田人。スタンダードレパートリーの《漁舟唱晩》のアレンジで知られる中国箏の演奏家。

余録

参考までに、本文で言及した古箏演奏家の代表的な録音を四点挙げて置く。特に (2) 項斯華のレコード (中国での録音)、(3) 王昌元のレコード (アメリカ録音)、(4) 蘇宇虹の CD 録音 (中国での録音) と特別講座での演奏プログラムは伝統曲が一定の割合を占めているといえるが、それらに比して近年の若手古箏演奏家の録音からは一見して伝統の後退、退潮の現象が読みとれる。

(1) カセット 戦台風 百利唱片公司 (香港) BA-91 1970 年代後期?

収録楽曲と演奏者が次のように記されている。当時の代表的な古箏演奏家が集められているが、文化大革命収束直後なので、伝統曲は《漁舟唱晩》一曲のみの収録となっている。

A 延辺人民熱愛毛主席 (王昌元)、戦台風 (王昌元)、洞庭新歌 (王昌元)、東海漁歌 (張燕燕)、鬧元宵 (王莉)

B 草原紅衛兵 (王莉)、瀏陽河 (王昌元)、紅旗渠水到俺村 (范上娥)、漁舟唱晩 (張燕燕)、你追我趕奪豐收 (合奏)

(2) レコード 項斯華 中国古箏名曲演奏集 EMGS-6087 EMI (1981 年)

A 漁舟唱晩、高山流水、西廂詞、出水蓮、月兒高

B 將軍令、秋思曲、広陵散、三十三板、四段曲、寒鴉戲水

すべて伝統曲で構成されている。

(3) Lyrichord Stereo LLST 7393 NEW WINE IN AN OLD BOTTLE ZHENG MUSIC FROM CHINA PLAYED BY WANG CHANG-YUAN 1980 年代?

A *出水蓮、歡樂的日子、*高山流水、*海青拿天鵝、*梅花三弄、延辺的歌、桜桃季節

B 戦台風、*寒鴉戲水、蘇武思郷、洪湖水、五木搖籃曲 (五木の子守歌)、蘇姍娜 (オー、スザンナ)

*が伝統曲。

(4) 蘇宇虹 中国古箏の魅力 (1) 山水・月夜 江蘇文化音像出版社 R-0270307 (2002 年)

寂空夜宇、*月兒高、*高山流水、*出水蓮、*平湖秋月、*寒鴉戲水、*関山月、*春江花月夜、*漁舟唱晩、シルクロード